

## 近代イギリス文化史ノートの2

倉 田 稔

もくじ

はじめに

18世紀

フランシス・ハチスン アダム・スミス ジョン・ハワード メアリ・ウルストンクラフト  
トマス・ペイン

19世紀

J. S. ミル スティーヴンソンの『宝島』 エレノア・マルクス 夏目漱石

はじめに

これは、かつて書いた「近代イギリス文化史ノート」(『言語センター広報』*Language Studies*, 第10号, 2002.3)の続きで、補いである。

18世紀

フランシス・ハチスン

フランシス・ハチスン (Francis Hutcheson, 1694-1746) は、アイルランド生まれであった。グラスゴーGlasgow 大学へ入学し、神学を自由派シンプソンに学んだ。牧師となって故郷へ戻り、ダブリンの学校教師になる。1730年から1746年の死まで、グラスゴー大学の道徳哲学の教授を勤めた。その進歩思想のために、大学を追われようとされたこともある。それを学生たちが反対運動を起こして阻止した。彼がどれほど学生に愛されていたかがわかる。

ハチスは考える。道徳的善の基準を他人の幸福の促進におき、善悪にかんする知識が、神に関する知識に関わりなく得られる、と。彼の講義は、新しく、はつらつとし、気力があり、独創的だった。intellect libertyの精気を吹き込んだ。彼は、道徳哲学の教授として、グラスゴーで初めて、旧習を破って、ラテン語をやめて、イギリス語で講義をし、同僚のDunlopと、古典研究を復興した。古典への愛と母国語への目覚めが近世文化のスタートであり、ルネッサンス(1)はそうだった。当時大学ではラテン語で授業がされていた。

ハチスは、Moral Sense Schoolの代表者で、スコットランド哲学の父と呼ばれる。彼は、神は人類の幸福のために存在する、と考える。アダム・スミスは、ハチスの神学のprivate classにも参加した。『諸国民の富』の“見えざる手”(invisible hand)は、このようなハチスの「神」を近代化したものに他ならない。(2)

アダム・スミス

アダム・スミス Adam Smith は、1723年Scotlandで生まれた。EnglandとScotlandは1707年に合併した。彼は1737年に、14歳でグラスゴー大学に入学した。その学問的指導者は、ハチスンであった。1740年、彼はMaster of Artsをえ、Oxford大学のBailliol Collegeへ入学した。

1746年に、スコットランドへ帰った。卒業しなかった。

アダム・スミスは、経済学者とされるが、初めは文学研究者としてデビューした。エディンバラ公開講座の一部で文学を語ったのである。1751年1月、Glasgow大学論理学教授になり、同時に道德哲学の講座ももった。道德哲学の講義は、1、自然神学 2、倫理学（道德感情論） 3、法学（正義論） 4、経済学（便宜論）であった。この頃、ジェームス・ワットが友人になった。1759年、『道德感情の理論』を35歳で出した。これで有名になるのである。文学研究の結果として、これが生まれた。今でいう心理学でもある。またすでにデイヴィッド・ヒュームは、『人性論』Human Natureを出版（1739年）し、その中で、スミスと同じテーマ、愛、憎、悲、喜、誇、卑下、善・悪、快・不快・苦、共感、義や不正義、美、醜、是認について論じている。これはまたハチスンの学問でもあった。1764年、スミスは大学教授をやめて、バックルー公（息子）の外国旅行家庭教師 travelling tutor となり、主にフランス旅行をした。1766年11月に帰国した。ロンドンの大英図書館読書室で研究し、1776年、『諸国民の富』（『国富論』）を出版した。『国富論』では、旧帝国主義の批判をした(3)。これは百科全書的著作であった。特に、第5編は、軍事、教育、宗教、歴史、財政の論である。ここで安上がり政府論を唱えた。旧重商主義の理論的代表者であるジェイムス・スチュアート James Stuart の『経済学原理』の批判でもあった。アダム・スミスは、自由貿易を唱え、金でなく便宜品を富とした。ニュートンの天文学の影響を受けた。労働価値説を体系的に作り、分業および生産的労働者数が生産力の基礎とみた。

スミスの主著の出版の年、アメリカが独立宣言をした。また親友ヒュームが死んだ。1789年に、フランス人権宣言が出され、フランス革命が始まった。スミスの学説が1783年に初めて下院議会で語られた。1790年にスミスは亡くなった。1792年に政治家ピットは公にスミス理論の重要性を語った。1793年には上院でスミスが語られた。

スミスの時代に、アダム・ファーガソンや、エドワード・ギボン『ローマ帝国興亡史』(4)のような、重大な書物が出た。

### ジョン・ハワード（John Howard、1726-90）

ハワードは、ロンドンの商人の息子として、1726年9月2日に生まれ、父は実業家で、国教離脱者だった。母はハワードを生んですぐ死んだ。彼はロンドンの商人の所で徒弟になった。1742年に父が死に、相当な遺産を継いだ。2度大陸旅行に出た。1755年に、リスボン大地震がおきた。彼は、困苦に悩む人々の身を救おうと計画する。1756年、災害の調査に向かった。当時、フランスとイギリスは、動乱のさ中で、7年戦争中だった。航海の途中、フランスの武装私有船（戦時政府の免許をえて敵国商船を捕獲する）に捕まり、プレストに連行され、監獄へ入れられた。こうして目的地にはゆけなかった。だが、この経験が、監獄改良への刺激になった。それは、はじめじめした汚い牢屋、数十時間食物を与えられず、与えられたのは小さな藁ブトンだけ、というものだった。ハワードは、フランスの海岸沿いに移送され、どこも監獄がひどいことを知り、慈悲心がわき上がった。彼は、再び大陸旅行をする。南フランス、イタリア（ヴェスヴィアス火山の火口の温度を計った）、スイス、オランダである。彼は生涯、健康がよくなかった。1771年に帰英した。

1773年に、ハワードはベッドフォードの執行官になった。任務は、監獄を視察することであった。本来これは名誉職であったが、彼は公務に骨を惜しまなかった。彼は、単に視察者としてだけでなく、詳しい調査を行なった。裁判を傍聴し、州の牢獄の監房をいちいち訪ね、囚人個々

のケースを突っ込んで研究した。はじめ、監獄学には無知であった。

彼の初めの動機は、無罪などとなった囚人が、監獄へ連れ戻され、獄吏や書記などに種々の手数料を支払う、そうしないと拘禁される、というのを見たことだった。ハワードは、裁判所にそれを訴えた。獄吏が手数料の代わりに俸給をうけるようにと。しかしその前例がないので、却下された。その前、ポーファム議員が、1773年に法案を下院に出し、否決された。1774年に、改正案が通過した。ハワードは彼と会見した。ポーファムはハワードの調査を知った。当時の事情はこうだった。債務者が、犯罪者と全く同じに悪い処遇をされていた。債務者にたいする刑が、ひどく、かつ悲惨だった。獄関係者は、囚人からゆすりをとった。男女こみで収容された。旧囚人は、新入り囚人から土産金をとった。監獄では汚物が清掃されない。窓がなく、空気・換気が悪い。人が呼吸で生きていることを、当時はまだ知らなかったのである。監獄熱が発生した。教悔師は、不徳で怠慢だった。ここでハワードの正義感が目覚めた。一般的な偏見のために、これらの状態は認められていた。ハワードは道徳的に憤激した。彼は、共働者、協力者を持とうとは考えなかった。彼は、何次にもわたりイギリス監獄の視察をした。また囚人の訴訟費用などを払ってやった。彼は広い慈善をするが、それを記録にしなかった。そして他人に知られるのを拒んだ。

ハワードの調査は、議会の注意を引き起こした。ポーファム議員が協力した。ハワードは、調査に、労力、費用、距離を惜しまない。1名しかいない監獄でも調査した。単身騎馬で行った。彼は、監獄問題審議の立会い人（下院）となった。監獄を徹底的に調べ、その忍耐、決意、謙遜さ、答弁の正確さ明白さは、すごかった。それが下院を感動させた。議長は公に感謝した。彼は代議士に立候補した、しかし落ちてしまった。

ヨーロッパ大陸の視察は、1775年4月にはじめた。パリのバスチーユ(Bastille)監獄は、拒絶された。しかし、脱獄国事犯から報告を受取り、パンフレットを書いた。彼は、ヨーロッパ中の監獄を調べた。その調査の特徴は、1、目的集中性、2、不屈の努力、3、人類愛への献身的態度にあった。彼は50歳以上になってから、調査をはじめている。彼は単に視察者としてではなく行なう。彼は書く。「私は、このむづかしい仕事の完全なシステムを設計する資格をもっているとは思っていません。もっとすぐれた人がこの問題について研究するのを助けるために、やっているのです。」「私は、どんな監獄も、何回か訪ねても、私自身の調べでなくては記述しません。」これは社会科学の模範である。彼は、獄房、地下房に、メモをもち、その場で細かいことをメモに書き入れた。「私の記述は、一般の読者にとっては余りに細かい。だが、一般的な言葉で特徴づけるよりも」よいだろう、と。彼は言う。オランダは、監獄の状態がよい。ドイツ、デンマークは、悪い。ロシアは、ものすごい。スイスは、中世的だ。パリは、イギリスよりよい。世界の監獄で3つが見られなかった。1つは、バスチーユである。それにリスボン、スペインの宗教検察庁の監獄も見られなかった、と。

ハワードは、クリミア半島で死んだ。彼は、Social Researcherである。未開拓の分野を探す企てをした。18c.の典型的Humanistであり、社会改良家である。彼の業績は、調査作業・実験の古典である。彼の主著は、『監獄の状態』The State of the Prisons、1777（邦訳『一八世紀の監獄事情』岩波文庫）である。(5)イギリスでは数版でた。そして版が変わるごとに大きくなった。監獄の食料改悪について大蔵大臣が演説すると、世論が刺激される英国は、日本とは国民性が違うのだった。

経済学の根本問題は、富と貧困の問題である。富が形成される間に、貧困が作られる。近代の経済学の創始者は、アダム・スミスであるが、同時代人に、監獄調査で有名なジョン・ハワード

がいたのだった。この二人の研究対象と方法は、きわめて対称的である。アダム・スミスは書齋で、フランス旅行で、学問をした。反対に歩き回った2人の思想家がいる。1人は、リンネウスである。彼はスウェーデンの植物学者である。もう1人がこのハワードである。ハワードについて、貧民の状態について調べる人が出て来た。Eden, F. M. (1766-1809)、The State of the Poor. 1797 (6)。彼は1軒1軒歩いた。Boothe, Charles がロンドン貧民を調べた。Kennan, George (1845-) は、アメリカ人だが、ロシア監獄を調べた。

『監獄の状態』Everyman's Library 版の編集者のノートで言う。

「The State of the Prisons は、1777 年に初めて出版された。Howard は、その後の版、1789 年と 1784 年とで、追加と変更をした。そして 1787 年に出版された An Account of the Principal Lazarettos in Europe と呼ばれる 1 巻の中で、その時以後の彼の観察を記事にした。この巻は実際、『監獄の状態』の続きであった。そしてその本よりも、病院については多く、そして監獄については、少なく報告をしている。Lazarettos の第 2 巻は、1791 年、彼の死後に出版された。そして『監獄の状態』の第 4 版は、第 3 版のリプリントであるが、1792 年に現れた。しかしその時以来どんな種類のリプリントもずっとない。

ここに与えられたテキストは、『監獄の状態』の第 3 版 (Howard の生前に刊行された最後のもの) から、そして Lazarettos の第 1 版から取られている。前の労作が、4 つ折り 505 ページで、後者が同 272 ページであるという事実を考えると、Howard が書いた全部は、“Everyman” の巻に採録できなかったことが分かる。またそれをすべて採録することは、望ましいものでもない。両方の本の大部分は、本国と外国の数百の監獄の、詳細な叙述からなっている。」

ハワードの監獄改良運動の影響で、ジェレミー・ベンサムは、改良監獄の発案をした。「パノプティコン」である。結局それは実現できなかった。彼のその当時の手紙の 1 つが小樽商科大学図書館にある。(7)

### メアリ・ウルストンクラフト

Mary Wollstonecraft は、世界で初めての女性解放の体系的著述をした。『女性の権利の擁護』である。その上、小説『メアリー』の作家であり、『フランス革命史論』、『人間の権利』の著者であり、『北欧からの手紙』を書いた。(8)なお、彼女は文筆で生活した世界で初めての女性である。ウィリアム・ゴッドウィンと結婚した。2 人の間に生まれたのがメアリーで、詩人シェレーと結婚し、『フランケンシュタイン怪奇物語』の著者である。

### トマス・ペイン (Thomas Pain, 1737.1.29 Thetford — 1809)

トマス・ペインは無数の職業をわたり、無一文になった。アメリカ代表となってイギリスにきた B・フランクリンをロンドンに訪れた。1774 年、彼にアメリカ行きをすすめられ、編集員になった。『コモン・センス』Common Sense、1776 (訳、岩波文庫) を書いた。アメリカ革命の最も有力な動因の 1 つ、近代政治思想史上の古典となった。内容は：

- 1、政府の起源とその目的を明らかにした。イギリス政府のやり方はこれにそむくものである。アメリカの民衆は当然反抗する権利がある。
- 2、イギリス憲法の不合理を論じた。
- 3、ジョージ 3 世の王室を暴露し、王政のばからしさと間違いを、聖書と合理性にもとづいて

明らかにした。

4、イギリス帝国からの分離独立こそが、平和と繁栄の道である、と。

5、アメリカは十分独立を成し遂げる力がある。

共和主義と独立論、これらを大胆率直に、誰よりも早く、やさしい言葉で書いた。当時の民衆は、目から鱗が落ちた。世界で最も読まれた2つのパンフレットの1つ、となった。

同じ年に、アダム・スミスが理論書『国富論』を出したのだった。スミスは、ペインと同じ方向であった。「トム・ペインが Common Sense で始めた仕事を、ジェファースンが独立宣言で仕上げようとしたのである。」その後、ペインはフランス革命に身を投ずる。(9)

## 19 世紀

### J. S. ミル

J. S. ミルは、ジェームズ・ミル (1773-1836)(10)という、高名な、これまた高名な思想家の、息子であり、1806 年 5 月 20 日、ロンドンで生まれる。幼い時から父による天才教育を受け、学校に通わなかった。尤もこの当時学校に通わなかった人は多い。

1820 年(14 歳)-21 年、1 年間、フランスに留学して、自由思想を吸収した。そして、セー、サン・シモンに会った。帰国後、ベンサム主義者になった。1822 年、功利主義協会、つまり一種のサークルを結成した。1823 年、東インド会社の書記となり、以来 35 年間にわたってそこで勤務したのである。ベンサムの出資した「ウエストミンスター評論」に協力寄稿した。ミルは「哲学的急進主義」(11)といわれる。ミルは、トンプソン(12)に会う。プレイス (F. Place、1771-1854)(13)の新マルサス主義(14)に共鳴し、その宣伝で検挙された。

ミル生涯の目的は、「世界の改革者になろう」であった。イギリスの功利主義という勃興期資本主義のイデオロギーの最も正統の子であった。しかし、1826-27 年の冬、従来の思想の狭さを反省し、新しい人生理論を持った。「幸福になる唯一の道は、幸福をでなく、何かそれ以外のものを人生の目的に選ぶことである。」(『自伝』128 ページ)。彼は分析に加えて、詩や芸術の重要性を悟る。

ミルは、後、ベンサム主義に疑問を持ち、功利主義を修正した。サン・シモン主義を知り、学んだ。古い自由主義経済学が局限されていることに開眼する。彼は、急進論者・民主主義者となる。貴族階級が権力を握っているのを、悪と見た。

ミルは、民主主義者だったが、夫人とともに社会主義的になる。そして働くものと働かないものとが分けられていない時代を待望した。1830 年、7 月革命(パリ)を視察した。

1834-40 年、「ロンドン・ウエストミンスター評論」の実質的主筆になる。条件付の社会主義、修正された民主制へ立場へ移行する。1836 年に父が死す。

ミルは『論理学体系』で、オーギュスト・コント(15)の実証主義の影響をうける。そこで帰納法の論理を作る。1843 年に出版した。「あらゆる認識は、経験から発す。」と。

それを『経済学原理』(1848 年)で实际的に適用した。生産法則は不変だが、分配法則は可変だとし(16)、社会主義に同情した。イギリス古典経済学の完成者である。ミルの疑問は、産業革命で生じてきた下層階級の人々が、資本主義で救われるか? であった。だから資本主義内部での社会改良を考えた。社会哲学の一環としてこれを書いた。新しい『国富論』を書いたのだった。これは世界各国で読まれた。初版 1848 年、2 版 1849 年、3 版 1852 年と、社会主義を少しずつ取り入れた。アダム・スミスの『諸国民の富』を発展させ、古典経済学を総合させたとされた。(17)

これをチェルヌイシェフスキーが注目した。自由貿易が 1846 年の法で達成していた。ミルはフ

ランス 2 月革命(1848 年)擁護論を出す。1849 年、ジョン・テラーが病死し。1851 年にハリエットと結婚する。20 年の恋愛後だった。彼女はヘレン＝継子を連れてきた。(18)

ミルは 1856 年、東インド会社の部長になる。だが東インド会社は廃止となり、58 年に退職した。1858 年、南欧旅行中、アヴィニオンで夫人が急死した。以後、当地に家を建て、アヴィニオンとロンドンで、養娘と暮らした。

1859 年、『自由論』を出版し、これは夫人との共著だった。(19)「性格のタイプにはいろいろの種類があって、しかも人間の性格が無数の相矛盾する方向にむかってそれぞれ完全に自由に伸びてゆけるようにしてやるのが、個人にとっても社会にとっても重要なのだ」(自伝 220 ページ)。

ミルは、1859 年に、『議会改革論』を出版した。1861 年に、『代議政治論』を出版する。アメリカ南北戦争では、奴隷制に反対し、北軍を支持し、1862 年に論文を出す。

ミルは、1865 年に、ロンドン・ウェストミンスター区から下院議員に当選した。金も使わず、選挙運動もしなかった。彼は、議会改革、選挙法改正を試みる。労働者にも参政権を認めよ、と。成人男子に選挙権を、には反対する。1866 年、政治的亡命者が外国政府から告発されたら故国に引き渡す法案に反対した。

1867 年に、「セント・アンドリュース大学名誉総長就任講演」を行った。

同年、下院で婦人参政権を主張した。これをきっかけに、「婦人参政権獲得国民協会」ができる。ここにナイチンゲールを参加させた。ミルの時代に、婦人参政権はまだなかった。彼は過激な改革主義として当時受け入れられなかった。ミルは、イギリス議会で初めて、婦人参政権の要求をした。議会は、常識に反するといって賛成しなかった。197 対 73 で否決された。

アイルランド分離に反対した。アイルランド小作人に地代をはらう土地保有権を与えよと。1868 年、買収防止法案の修正をし、合法的選挙費に反対した。議員を落ちる。『婦人の従属』を 1869 年に出版する(20)。1870 年、土地改良協会を組織し、会長になる。

1873 年 5 月 7 日、ミルはアヴィニオンで死んだ。『自伝』は死の年に出版された。ヘレン・テラー(養女)によった。1874 年、『宗教論』、『社会主義論』1879 年、をヘレン・テラーが出す。

彼は、約 20 の単行本、数百の論文を書いた。東インド会社の重役、議員になった。きわめて行動半径が広がった。当代の大思想家と交流した。ミルは、良心的なイギリス自由主義を代表した。(21)

ミルの思想は日本にも大きな影響を与えた。『婦人論』は、1878(明治 11)年、深間内が「男女同権論」として訳した。ミルは、明治時代を通じて最良の思想的指導者と見なされた。『自由論』On Liberty, 1859 は、日本では、中村敬太郎の翻訳『自由之理』(1872 年)以来、影響が強い。自由民権運動がミルをよりどころにしたからである。しかし、ミルの自由論は近代社会における自由であった。日本のように前近代の自由ではなかった。すでにピューリタン革命を行っているからである。日本ではそのため誤解された。大正の末期以後、ミルへの批判が始まった。

### スティーヴンソンの『宝島』

ロバート・ルイス・スティーヴンソン(22)の『宝島』が 1883 年に刊行された。これで、イギリスの海洋冒険小説の 3 つの有名なものが出ることになる。例えば、他の 2 つとは、ともに 18 世紀であるが、ダニエル・デフォーの『ロビンソン・クルソー』であり、スウィフトの『ガリバー旅行記』である。イギリスは海洋国民と言われ、これらはその象徴である。スティーヴンソンの英語は夏目漱石が褒めたものである。これらは、イギリスが、エリザベス 1 世以来の長い重商主義を経て

いる証拠であり、象徴である。日本が島国根性を持つと、よく言われる。しかしそれは違うのである。この時代にちょうど日本は徳川鎖国時代であった。同じ島国のイギリスは島国根性をもたなかった。それは、政治経済制度、あるいは外国貿易のあり方（あるいは、ある・なし）が違っていたので、精神も違ってきただけであった。

重商主義に対してアダム・スミスが批判をしたと、前述したが、トマス・モアの『ユートピア』やフランシス・ベーコンの『ニュー・アトランティス』も、それにあたるものである。

### エレノア・マルクス

カール・マルクスの3女、エレノア・マルクスは、1967年以来非常によく知られるようになった。なぜなら、都築忠七教授が名著『エレノア・マルクス』(The Life of Eleanor Marx. A Socialist Tragedy. 1967年)を出版したからである。みすず書房から翻訳もある。都築さんは、マルクス家の秘密をあばいた。これは当時、世界的なショックとなった。その後、イヴォンヌ・カップ女史の研究も出た。都築先生の『エレノア・マルクス』は、芸術的で、かつ劇的 dramatic なので、イギリスのBBC放送で、劇化されて放映された。ロイヤル・シェークスピア劇団の女優・俳優たちが演じている。ほぼ3時間のものであった。この映画は3部に分かれる。Part 1 Tussy (60 min). Part 2 Eleanor (50 min.). Part 3 Dr. Aveling's dog (50 min.) である。著書は、マルクス『資本論』出版100年記念の年に出た。これに基づいて、マイケル・ヘスティングズの小説『エリナ・マルクスの生涯』(三笠書房)も出た。

なお、都築先生は、H. M. Hyndman, Edward Carpenter の伝記も出版している。

エレノアは、プロスペル・レサガレー(後の、『パリ・コムーヌの歴史』の著者)と婚約したが、結婚に至らず、その後、とんでもない男、ドクター・エドワード・エイヴリングと同棲し、悲劇的結末を迎える。

### 夏目漱石

後の夏目漱石、本名・金之助(1867-1916)が、ロンドンに留学しにきた。1900年だった。彼は第五高(現・熊本大学)教授であり、1900(明治33)年6月、文部省から英語研究のため、満2年英国へ留学を命じられた。年1800円の支給であった。まず7月に熊本から上京し、準備をした。9月横浜からプロイセン号に乗った。芳賀矢一、藤代、瀧廉太郎、と一緒にだった。瀧は、東京音楽学校校長、後の小樽高商校長・渡辺龍聖の推薦であった。(23)夏目は、10月にパリに2週間とどまり、12月に6 Flodden Road, Camberwell New Road, S. E. Mrs. Brett の家に下宿した。そして Dr. Claig に個人教授をうける。夏目はロンドンで書籍をたくさん買った。

1901(明治34)年に、『ホトトギス』5、6月に「倫敦消息」を出している。4月 Brett 一家とともに Tooting へ移り、7月に 81 The Chase, Clapham Common S. W. の Miss Leale の家に移った。秋、彼は土井晩翠と往復している。

彼は1902(明治35)年、中村是公と会った。9月頃、夏目は、強度の神経衰弱となり、発狂の噂がでたほどだった。彼は気晴らしに自転車の稽古をしている。10月、スコットランドへ遊んだ。12月、帰国を始めた。1903(明治36)年1月に神戸に着いた。2年半の留学だった。この間、親友の正岡子規が亡くなっている。

2月に、夏目は五高をやめて、3月に、一高教授となり、同時に東京帝大の講師(小泉八雲の後任)になる。

7月、『ホトトギス』に「自転車日記」を出す。1905（明治38）年に、「倫敦塔」「カーライル博物館」を出す。1907（明治40）年4月、すべて教職をやめて、東京朝日新聞に入社した。彼は、留学から帰って4年後に、教師をやめてしまった勘定になる。この間、研究よりも創作をしたくなったからであり、東大教授になるはずだったが、それを振ってしまった。

英国留学で彼は、ヨーロッパ個人主義の良い面と悪い面を知ったと思える。日本では個人主義では生きにくいことを、『草枕』『坊っちゃん』で描いている。(24)個人主義の利己的面を「こころ」で描いた。講演「私の個人主義」で独自の個人主義論を展開している。亡くなるころ、思想表現の上では個人主義を止めてしまった。

- (1) ルネッサンスは、ギリシャ・ローマ文化の摂取、ラテン語だけでなくギリシャ語・ヘブライ語の学習、母国語への愛、アリストテレスだけでなくプラトンをも学ぶ、などという点で特徴づけられる。
- (2) Hutcheson の訳書：An Inquiry into the Original of our Ideas of Beauty and Virtue, 1725（山田訳『美と徳の観念の起原』玉川大学出版部 1981年）
- (3) 内田義彦『経済学の生誕』未来社。
- (4) ジョージ・サンプソン『ケンブリッジ版イギリス文学史』2、研究社、1993年、によれば、「イギリス最大の歴史家」（289ページ）である、と。
- (5) フランス語訳が1788年に、ドイツ語訳が1780年にでた。邦訳は、『監獄事情』刑務協会横浜支部刊行、昭和15年、で、刑務所の中で翻訳され、昭和47年（＝1972年）に再版がでた。岩波文庫でも出た。研。Leona Baumgartner（米国人）、John Howard. Baltimore 1939年。日本でも監獄、ハワード研究がある。林有造『旧夢談』明治24年。著者は実業家で、明治の自由民権運動で獄につながった。『明治文化全集』第22巻。小樽にも滞在した。小河滋次郎（法学博士）『監獄学』。名著と言われる。『看守の心得』、『監獄夢物語』明治44年、明治時代の社会的ユートピア。実際の改良、キリスト教的なものは、留岡幸助『監獄変革史』明治33年 非売品。半分はジョン・ハワードの伝記。森近運平「John Howard 言行論」。
- (6) 『小樽商科大学附属図書館貴重図書』32ページ。
- (7) 同、31ページ。
- (8) 拙書『社会思想史ノート』続7-8ページ。邦訳伝記に、クレア・トマリン『メアリ・ウルストンクラフトの生涯』がある。
- (9) 訳『人間の権利』岩波文庫。
- (10) 作品）『イギリス領インド史』1818年、『経済学要綱』、『政治論』、『人間精神の現象分析』。彼はリカードに経済学書を書くことを薦めた。それが『経済学と、課税の原理』になった。
- (11) 女性を選挙権から除外するのに反対：新マルサス主義：代議政体と言論の完全な自由への信頼。
- (12) ウィリアム・トンプソン。オーエン主義者。ミル：「非常に尊敬すべき人物だった。コーク［アイルランド南部の1州］の人で、富の分配についての著書があり、私の父の「政治論」の中の女性に関する例のくだりに反対して、女性のために「国民に訴える」も書いた人だった。」『自伝』112ページ、例のくだりは、95ページ。W. Thompson, 1775-1833は、Ricardian socialistsにも数えられ、それらには、C. Hall, 1745?-1825? : T. Hodgskin, 1787-1869 : C. W. Dilke, 1789-1869 : J. Gray, 1799-1883 : T. R. Edmonds, 1803-1889 : J. F. Bray, 1809-1897 : P. Ravenstone, ?-?, がいる。Ricardian Socialist という言葉は、Foxwell が最初に使った。実際はスミス派社会主義だ、という説がある。
- (13) フランシス・ブレイス『人口原理の例証』1822年。
- (14) 本来は、マルサスの主張＝人口法則を認め、マルサスの言う道徳的抑制は実行できないから、受胎調節を行う早婚が最もよい、という説。初めに述べたのがブレイス。（文献）吉田秀夫『新マルサス主義研究』1940年。
- (15) August Comte, 1798-1857. サン＝シモンの影響にあったが、別れ、『実証主義哲学講義』（1830-1842）で、実証主義を確立す。ミル、スペンサーに影響する。（文献）清水幾太郎『オーギュスト・コント』岩波新書。
- (16) 『自伝』見よ。
- (17) ミル：「私の著書の中で、妻の応援が顕著にあらわれた最初のものは、『経済学原理』であった……他のどの



章にもまさって世論に大きな影響を与えた「労働者階級の将来の予測」の一章は、完全に妻に負うものであって、同書の最初の草稿にはあの章はなかったのである。……」（『自伝』 213 ページ。）

(18) 文献 Hayck, John Stuart Mill and Harriet Taylor, 1951.

(19) 『自由論』は私の名を冠した他のどの著作とくらべても、より直接に文字通りに二人の合作であった。」自伝 219 ページ。

(20) ミルの『婦人論』=『女性の従属』、拙書『社会思想史ノート 続』 p. 9-10。

(21) (文献) 杉原四郎『ミルとマルクス』ミネルヴァ書房、その第 2 部：同、『J・S・ミルと現代』岩波新書：チェルヌイシェフスキー『「J. S. ミル経済学原理」への評解』岩波書店：大泉「社会思想家としてのジョン・ステュアート・ミル」

(翻訳)『自伝』岩波書店；『女性の解放』岩波書店；『自由論』岩波書店；『経済学原理』岩波書店；『J・S・ミル初期著作集』御茶の水書房；『論理学体系』；『経済学試論集』；『代議政治論』（『世界の大思想』）；『コントと実証主義』木鐸社；『功利主義』（『世界の名著』）；『学問の理想』みすず書房；『社会主義論』（『世界の大思想』）；『道德科学の論理』；『文明論』。

(22) スコットランド生まれ、他に、『ジキル博士とハイド氏』1886 年。

(23) 渡辺について、『小樽高商の人々』北海道大学出版会。拙書『小林多喜二伝』論創社 2003 年。

(24) 『社会思想史ノート 続』丘書房。

### 一般的参考文献

トレヴェリアン『イギリス史』3 分冊、みすず書房。

トレヴェリアン『イギリス社会史』。

今井登志喜『イギリス社会史』上下、東大出版会。

アンドレ・モロワ『イギリス史』上下、新潮文庫。

『ケンブリッジ版 イギリス文学史』全 4 冊、研究社。